

多久ロータリークラブから図書贈呈



▲田原教育長(右)吉崎泰市校長会長へ図書
を寄贈する可児健治会長、永石喜八幹事、船
津美奈子青少年奉仕委員長

6月13日(月)、市役所教育長室にて多久ロータリークラブ(可児健治会長)から10万円分の図書が市内各学校へ贈られました。「子どもたちに好きな本をいっぱい読んでもらい、読書でいろいろな知識を身に付け、自らが進むべき道を歩んで欲しい」との思いから、毎年贈られているものです。

多久ロータリークラブからの図書贈呈は、今回10年目を迎えました。市内各学校から希望図書を募り、小学校に37冊、中学校に28冊の計65冊の本が贈られ、子どもたちはワクワクしながら新しい本にふれあっています。

「多久市キャリアスタートウィーク」に向けて!

市内の中学校では、平成19年度から事業所の協力を得て、夏休みの期間中に「多久市キャリアスタートウィーク」を設定し、3校合同の職場体験を実施しています。昨年度は、さまざまな方のご協力をいただき、市内を中心に71事業所で実施することができました。

「体験活動を通して人と関わりながら将来の職業を描ける子どもを地域で育てる」という趣旨を生かして行っています。市内の事業所のみならず、多久市の将来を担う中学生に良き体験の場をお与え頂いていることに感謝します。

○期間…8月23日(火)～26日(金)の4日間

○対象者…各校8年生176人
(中央校105人、東部校31人、西溪校40人)

◆市内各学校での研究指定事業を行っています。

- 国指定 「コミュニティ・スクールの導入等促進事業」 市内全校
- 県指定 「児童生徒の活用力向上研究指定事業」 中央校
- 県指定 「英語教育研究指定事業」 西溪校
- 市指定 「多久市教育委員会委嘱(小中一貫教育)」 市内全校

■問い合わせ 教育委員会 学校教育課 ☎75-12227

温故創新

市長コラム Message for citizen

18歳参政権。忘れず投票を。

市長 横尾 俊彦

70年ぶりの法改正で新たな歴史が始まります。18歳以上の国民が参政権を得る改正公職選挙法が6月19日に施行され、新たに約240万人が投票権を得ることになりました。

選挙権年齢が「25歳以上」から「20歳以上」に引き下げられたのは1945年。それ以降、初めてです。今回改正の18歳以上が対象となるのは衆院選・参院選、地方自治体の首長・議会の選挙などで、所管する総務省では18歳選挙権の広報サイトを設け、都道府県や市町村と連携して啓発に努めています。

7月10日投票の参議院議員選挙にはこの新たな参政権を持つ若者が参加します。一部地域では6月19日以降の地方選挙(首長・議員選挙)でも18歳以上の投票が実施されます。

この新たな改革に注目しています。なぜなら、未来をつくる仕事でもある政治において、国民住民の代表者を選ぶ選挙に、18歳、19歳という10代の意思が反映されることになり、新たな政治潮流にもなりうることも期待されるからです。

このところの投票率低下は憂慮される状況です。誰を選んで変わらぬ、自分には関係ない、等の諦め気味の意見もありますが、参政権という権利は極めて重要です。心血を注ぎ、命を懸けて先人が獲得してきた歴史も忘れてはなりません。ここに込められた崇高な理想、民主政治によるより良き理想への未来選択を志向するという原点の深い認識も欠かせません。開票日には18～20歳の投票率が話題になるでしょう。

政策、ビジョン、人柄などの情報を読み、「世話になったから」でなく、「未来を選択する」という視点も踏まえ、ベストの選択をしていただきたい。投票日に都合悪い方には市役所での期日前投票があります。忘れず投票に出かけてください。未来を担う若者や子供達、そして私たちの未来のために。